

早稲田商学第 451・452 合併号  
2 0 1 8 年 3 月

## 消 息

### 飽くなき探究心が育んだ創造性溢れる 研究ワールド：小林啓孝先生

「エネルギーで、しかもエレガントな雰囲気が漂う若先生」、それが約30数年前に筆者が初めて小林啓孝先生とお会いした時の印象でした。ちょうど日本原価計算研究会の全国大会が横浜市立大学で開催された時のことで、たしか先生が明治学院大学経済学部助教授の頃のことだったのでしょうか。ともあれ、その瞬間を私は今でも鮮明に記憶しています。

その小林先生も昨年11月20日に満70歳、古希を迎えられ、2018年3月に早稲田大学商学大学院を退職されました。約30年に及ぶ先生とのお付き合いを通じて、プライベートな事柄も含め常に先生は的確な助言を私に与えてくださいました。もちろん、研究面でもご自身の著作や研究発表を通じてわれわれは大いなる刺激を受けてきたことはいまでもありません。以下では、そうした先生のこれまでの研究および社会活動の軌跡を振り返ってみたいと思います。

小林先生は、1947年に埼玉でお生まれになり、私立城北高等学校を卒業後の1966年4月に立教大学経済学部経済学科入学、同学部卒業後の1970年4月に一橋大学大学院商学研究科修士課程に進学されました。1972年3月に一橋大学大学院商学研究科修士課程を修了後は同大学院博士課程に進まれ、翌年の1973年4月に一橋大学大学院に籍をおきつつ明治学院大学経済学部助手に就任されました。なお、同学部にて専任講師となられるのは、一橋大学大学院にて博士課程の単位を修得された1975年4月のことです。その後、1978年4月に同学部助教授、1985年4月には教授に昇任されました。

その間の1982年9月から1年間、先生は米国のワシントン大学の School of Business, Government and Society にビジティング・スカラーとして在外研究も経験されました。同大学で先生は講義や研究会に参加される傍ら、実証研究が盛んな風潮を察知し、米国滞在中に数学や統計学を勉強されました。その結果の一端が後に『MBA ビジネス金融

工学／デリバティブとリアル・オプション』(2003年)の執筆に繋がったものと推測されます。また、先生は元から語学が堪能でしたが、在外研究中にさらに磨きがかかり、その後も英語だけでなく、フランス語やイタリア語にも関心を示され、海外の小説なども日本語訳ではなく、原著で読まれるほど熱心に勉強されておられました。ゆえに、先生は会計研究科でも英語を中心とした授業を担当されておられましたし、加えて本学の国際教養学部からの要請に応じて、Introduction to Accounting という講義も担当され、その丁寧かつ正確な語り口は、とりわけ留学生に好評であったとかがっています。

先生は、明治学院大学を1987年に退職された後、慶應義塾大学商学部助教授となりました。同学部では、1990年4月に教授に昇任され、早稲田大学商学学術院教授(大学院会計研究科教授)に就任された2005年3月までの18年間に渡り、慶應義塾大学商学部の助教授・教授として多方面で活躍されてこられました。その間の平成1991年9月には慶應義塾大学にて博士(商学)の学位を取得されました。また、退職と同時に慶應義塾大学名誉教授の称号も授与されています。じつは、早稲田大学においても先生は近々名誉教授に推奨される運びであり、早慶という日本の私学を代表する2つの大学において名誉教授の荣誉に輝いたケースは、ほとんど例を見ない快挙といえるのではないのでしょうか。

話は前後しますが、前述の一橋大学大学院時代に、恩師にあたる岡本清一橋大学大学院商学研究科元教授に師事されたことが、小林先生のもその後の人生を大きく方向づけたことは、想像に難くありません。岡本元教授は日本における原価計算研究の第一人者でしたが、小林先生もまた原価計算および管理会計の分野で日本の学会をリードされてこられました。それは学会報告や学会誌への投稿といったことに限ったものではなく、たとえば日本原価計算研究学会においては1994年10月より理事、その後1997年10月からは常任理事を務められましたし、日本管理会計学会においても、1995年4月から理事、1999年4月からは常務理事、さらには副会長(2002年4月～2005年3月)を歴任するとともに、その貢献が認められ、1993年9月には「ABCと日本企業」(『原価計算研究』17巻1号)にて日本原価計算研究学会学会賞を、2015年9月には日本管理会計学会功績賞を受賞されておられます。さらに、こうした学会活動以外でも、全国経理学校協会簿記能力検定試験上級試験委員(1991年4月～2015年3月)のほか、公認会計士第二次試験委員(1994年11月～1997年10月)、公認会計士第三次試験委員(1999年8月～2002年

3月)、さらには公認会計士・監査審査会新公認会計士試験実施検討小委委員会委員(2004年7月～2005年3月)、公認会計士・監査審査会新公認会計士試験委員選任小委委員会委員(2005年7月～2007年9月)も勤められました。そして、こうしたキャリアを有するがゆえに、先生は早稲田大学就任の翌年に大学院会計研究科科長に就任されることになりましたが、それが功を奏してでしょうか、わが国の会計専門職大学院の多くが軒並み苦戦を強いられるなか、いわば早稲田大学の独り勝ちの状況が続いたことは周知のことと思います。

その他にも、先生は日経・経済図書文化賞推薦委員、学位授与機構学位審査会専門委員(経済学・商学・経営学専門委員会委員)、大学評価・学位授与機構大学評価委員(経済学系研究評価専門委員)、独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(第1段階審査担当委員)、防衛庁・防衛省防衛調達審議会委員および同審議会会長代理、防衛装備庁経費率研究会会長など、じつに様々な社会貢献を果たされてきました。紙幅の関係から、そのすべてを紹介することはできないのが、誠に残念です。

ところで、先生の最初の著書は1989年10月に上梓された『企業行動と管理会計』です。本書では、環境、企業、企業構成員間に生じる現象を見ていく際の一つの枠組みを提示するとともに、日本企業を素材として、環境、企業、企業構成員間の相互作用がどのような性質のものであるかを検討しています。企業を取り巻く環境の変化がますます激しさを増すなか、スピード感をもってそうした状況に対処する技術や仕組みを考案しようとするアプローチは、それまでの管理会計研究の枠を超えた非常に斬新なものでした。先生は、その後も原価計算および管理会計研究の本流ともいえるテーマに関する数多くの論文や著作を残されるとともに、既存の研究領域に捕らわれることなく最新の研究テーマにも果敢にチャレンジしてこられました。

まず、本流の原価計算に関する代表的な著作が、1994年9月に出版された『現代原価計算講義』であり、本書は現在も公認会計士を目指す学生の必読の書となっています。また、後者の著作としては、マルチメディア利用の一つの核と目されるエンタテインメント・ビジネスの経営と管理のための会計システムのあり方に焦点をあてた『マルチメディア管理会計—コンテンツ・ビジネスの経営と会計』(1996年)、小売業の経営および利益戦略について検討し、同産業が利益を生み出す原因そのものへの働きかけを重視すべきと議論する『変革期の小売業の利益戦略—スーパー・コンビニ・百貨店の経営と会

計』（1996年）、事業再編の成否のカギは企業評価にあるとして、再編で用いられる各種の分析ツールについて解説した『事業再編のための企業評価』（2001年）であり、またIT企業を中心に、最先端企業の隆盛から衰退までをトレースして核心に迫る最新刊『ケース分析—エレクトロニクス産業攻防のダイナミズム』（2017年）です。

さらに、そうした既存の研究の枠にとらわれない先生の研究姿勢は、論文においてさらに顕著に表れています。たとえば、そこではラスベガスのカジノ・リゾートやスペインの高級レストランなどが研究対象として考察されています。先生は、けっしてギャンブルなどはされませんが、たまたま旅行された際に目に触れたカジノに興味を持たれ、その存在がラスベガスという街にどのような影響をもたらしているのかを研究せずにはいられなかったのだと思います。後者のレストランをとりあげた論文もこの点は共通しています。

それだけではありません。管理会計の標準的テキストという位置づけで出版された「エキサイティング管理会計」（2008年）でも、一般的な製造業の事例に代わって、なんとミシュランの星付きレストランを取り上げて解説するなど、読者の興味を引くための各種の工夫を、巧みに、それでいてさりげなく試みています。それらは、けっして奇をてらったものではなく、日常生活のなかで目に触れたこと、体験されたことをそのままにはせずに、とことん探究する先生の研究スタイルを色濃く反映したものといつてよいでしょう。そんな先生を見ていると、前世でも研究者だったに違いないと時折思うほどで、小林先生はまさに根っからの学者といつて過言ではありません。

冒頭でふれましたが、先生とのお付き合いは30余年に及びます。その間、何度も海外にご一緒させていただきましたし、お食事を共にしたことも数えきれないくらいの回数にのぼります。食事の場合は、たいてい私のほうからお誘いするのですが、先生はどちらかといえば寡黙な方で、あまり喜怒哀楽を表に出しません。それでも、時折ふっと「おいしい！」とため息交じりに発せられる瞬間があります。それが、とてもチャーミングで、また先生からあの言葉をお聞きしたいと思い、じつは今も次回の計画を練っているところです。

先生は、定年を迎えられ、早稲田の杜を離れられました。もとより先生の研究活動が終焉を迎えたわけではありません。これからも、今までと同様何事にもこだわりと情熱をもって取り組まれることでしょうし、われわれもその姿を目の当たりにして刺激を

受け続けるものと確信しています。最後に、長年にわたるご指導・ご鞭撻に感謝申し上げますとともに、先生のますますのご活躍とご健勝を衷心よりお祈り申し上げます。

### 単著

『企業行動と管理会計』中央経済社，1989年10月

『現代原価計算講義』中央経済社，1994年9月

『公認会計士第2次試験 短答式 原価計算演習』中央経済社，1994年9月

『公認会計士第2次試験 短答式 原価計算演習第2版』中央経済社，1995年9月

『変革期の小売業の利益戦略—スーパー・コンビニ・百貨店の経営と会計』中央経済社，  
1996年11月

『現代原価計算講義第2版』中央経済社，1997年12月

『公認会計士第2次試験 短答式 原価計算演習第3版』中央経済社，1997年10月

『事業再編のための企業評価』中央経済社，2001年11月

『MBA ビジネス金融工学／デリバティブとリアル・オプション』中央経済社，2003年  
5月

『エキサイティング管理会計』中央経済社，2008年12月

『ケース分析 エレクトロニクス産業攻防のダイナミズム』中央経済社，2017年6月，

### 共著

『マルチメディア管理会計—コンテンツ・ビジネスの経営と会計』中央経済社，1996年  
7月（山根節氏との共著）

『演習 管理会計論』中央経済社，清水孝氏との共著）

『スタンダード管理会計』東洋経済新報社，2009年9月（伊藤嘉博，清水孝氏，長谷川  
恵一氏との共著）

『スタンダード管理会計第2版』東洋経済新報社，2017年4月（伊藤嘉博，清水孝氏，  
長谷川恵一氏との共著）

### 編著

『管理会計論ガイダンス』中央経済社，1993年7月（田中隆雄氏との共編著）

- 『原価企画戦略 — 競争優位に立つ原価管理』中央経済社, 1995年2月 (田中隆雄氏との共編著)
- 『ネオ・バランスト・スコアカード経営』中央経済社, 2001年6月 (伊藤嘉博との共編著)
- 『リスク・リターンを経営手法 — ケースでみる定量的評価・計画の実践』中央経済社, 2006年4月 (加藤芳男氏, 小松原幸明氏, 辺見和晃氏, 山田方敏氏との共編著)
- 『業績管理会計』中央経済社, 2010年10月 (谷武幸氏, 小倉昇氏との共編著)

## 論文

- 「直接原価計算 — 歴史的研究」(修士論文) 1972年3月
- 「プロダクト・ミクスと会計データ」『経済論集』20号, 1973年12月, pp.47-81
- 「財務目標と数理計画法(1)」『明治学院論叢 経済研究』40号, 1974年7月, pp.1-27
- 「振替価格決定問題」『経済論集』22号, 1975年1月, pp.59-89
- 「利益管理システム」(博士課程単位修得論文) 1975年3月
- 「財務目標と数理計画法(2)」『明治学院論叢 経済研究』41号, 1975年9月, pp.1-22
- 「不確実性下のCVP分析」『Computer Report』16巻5号, 1976年4月, pp.45-49
- 「直接原価計算方式による利益管理の諸問題」『経済論集』26号, 1977年3月, pp.161-181
- 「広告予算管理論の視点」『明治学院論叢 経済研究』47号, 1977年9月, pp.55-70
- 「経営分析教育の一方」『明治学院論叢 経済研究』48号, 1978年2月, pp.117-141
- 「価格決定に対する一アプローチ(1)」『明治学院論叢 経済研究』55号, 1980年3月, pp.1-20
- 「価格決定に対する一アプローチ(2)」『明治学院論叢 経済研究』56号, 1980年5月, pp.1-19
- 「日本における企業組織の編成および運営原理(1)」『明治学院論叢 経済研究』58号, 1980年9月, pp.1-28
- 「日本における企業組織の編成および運営原理(2)」『明治学院論叢 経済研究』59号, 1980年12月, pp.1-23
- 「日本社会の構造と日本の経営の特質」(奨励賞受賞, 財団法人東京海上各務記念財団), 1980年12月

- 「日本における企業組織の編成および運営原理(3)」『明治学院論叢経済研究』61号、1981年9月、pp.1-28
- 「日本における企業組織の編成および運営原理(4)」(『明治学院論叢経済研究』63号、1982年2月、pp.1-21
- 「振替価格決定論の再検討」『明治学院論叢経済研究』69号、1984年3月、pp.83-117
- 「自製か購入かの意思決定の検討」『明治学院論叢経済研究』71号、1984年12月、pp.27-74
- 「認知図式(スキーマ)と意思決定」『明治学院論叢経済研究』80号、1987年12月、pp.91-115
- 「意思決定会計と問題解決過程(1)」『三田商学研究』30巻6号、1988年2月、pp.35-47
- 「意思決定会計と問題解決過程(2)」『三田商学研究』31巻2号、1988年6月、pp.39-52
- 「意思決定状況と会計情報」『會計』134巻1号、1987年7月、pp.35-46
- 「意思決定会計と問題解決過程(3)」『三田商学研究』31巻3号、1988年8月、pp.63-78
- 「意思決定会計と問題解決過程(4)」『三田商学研究』31巻4号、1988年10月、pp.1-16
- 「意思決定会計と問題解決過程(5)」『三田商学研究』31巻6号、1989年2月、pp.49-61
- 「組織における意思決定と管理会計」『會計』135巻5号、1989年5月、pp.12-26
- 「環境変化と管理会計」『企業会計』41巻10号、1989年10月、pp.77-82
- 「原価管理の論理構造」『三田商学研究』32巻5号、1989年12月、pp.112-123
- 「意思決定会計と問題解決過程(6)」『三田商学研究』32巻6号、1990年2月、pp.49-61
- 「原価管理とVE」『會計』137巻3号、1990年3月、pp.62-74
- 「原価管理とTQCとの関連」『産業経理』50巻1号、1990年4月、pp.73-82
- 「原価管理研究のあり方」『一橋論叢』103巻5号、1990年5月、pp.50-68
- 「電気機器メーカーにおける環境変化への対応 — 東芝の管理会計制度」『企業会計』42巻10号、1990年10月、pp.31-37
- 「CIMと日本の管理会計」『経営実務』448号、1991年9月、pp.60-65
- 「経営管理の一環としての管理会計の研究」(博士論文)1991年9月
- 「ABCにおけるコスト・ドライバー概念の検討」『會計』142巻1号、1992年7月、pp.45-57
- 「活動基準原価計算(ABC)の検討」『三田商学研究』35巻4号、1992年10月、pp.60-77
- 「ABCと日本企業」『原価計算研究』17巻1号、1992年11月、pp.14-24

- 「戦略的管理会計の枠組み」『三田商学研究』35巻6号, 1993年2月, pp.50-64
- 「プリムソンのアクティビティ製品原価」『経営実務』468号, 1993年6月 (IMA 日本支部研究報告 No.3『販売/流通活動と管理会計』IMA 日本支部, 1993年8月, pp.119-127に再録), pp.12-18
- 「サービス業務の管理会計」『産業経理』53巻3号, 1993年10月, pp.58-66
- 「サービスの原価管理」『企業会計』45巻12号, 1993年11月, pp.60-65
- 「菱食の市場競争戦略」『企業会計』46巻7号, 1994年6月, pp.64-71
- 「小売・ロジスティクスにおける管理会計情報活用の課題」『会計』146巻4号, 1994年10月, pp.14-26
- 「ABCにおけるコスト・ドライバー」『経営実務』482号, 1994年11月, pp.2-6
- 「流通戦略と会計情報」『The Sixth Tokyo Keizai University International Symposium Proceedings』, 1994年11月, pp.13-25
- 「製造業における会計システムの変革」『自動化技術』27巻2号, 1995年2月, pp.100-104
- 「製品開発戦略と原価企画」『慶應経営論集』12巻3号, 1995年3月, pp.169-181
- “Distribution Strategy and Accounting Information,” *Keio Business Review*, No32, 1995年7月, pp.1-15
- 「競争優位のためのダイナミック・アカウンティング(1)」『旬刊経理情報』765号, 1995年9月, pp.23-29
- 「小売業の利益管理序説」『会計』第148巻4号, 1995年10月, pp.53-64
- 「競争優位のためのダイナミック・アカウンティング(2)」『旬刊経理情報』769号, 1995年11月, pp.4-9
- 「競争優位のためのダイナミック・アカウンティング(3)」『旬刊経理情報』772号, 1995年12月, pp.24-30
- 「コンテンツ・ビジネスにおける創造性・リスクの管理と会計」『産業経理』55巻4号, 1996年2月, pp.10-19
- 「PB と価格革命」『企業会計』48巻8号, 1996年7月, pp.26-32
- 「キリンビールのマーケティング・コストの管理」『旬刊経理情報』798号, 1992年10月, pp.4-10
- 「ボラタイルな市場と企業経営」『オフィス・オートメーション』17巻3号, 1996年10月,



pp.34-39

「小売業の戦略会計」『企業会計』50巻2号, 1998年1月, pp.116-122

「原価計算の新しい展開 —21世紀の産業社会に向けて—」『原価計算研究』22巻1号, 1998年1月, pp.1-12

「管理会計変貌の視点」『會計』153巻3号, 1998年3月, pp.58-70

「ダイナミック・マネジメント」『三田商学研究』42巻6号, 2000年2月, pp.137-151

「イメージング・マーケットにおける企業行動」『會計』158巻4号, 2000年, pp.17-31

「技術の会計的評価」『企業会計』53巻2号, 2001年11月, pp.4-11

「ABC/ABMの限界と可能性」『原価計算研究』25巻1号, 2001年1月, pp.10-18

「ダイナミック・マネジメントとシナリオ・プランニング」『三田商学研究』44巻3号, 2001年3月, pp.47-58

「M&Aにおけるターゲット企業の評価」『三田商学研究』44巻5号, 2001年8月, pp.85-95

「投資意思決定とDCF法の拡張」『企業会計』54巻4号, 2002年4月, pp.52-58

「戦略をとりまく不確実性と分析ツール」『會計』161巻4号, 2002年4月, pp.46-58

「コーポレート・ファイナンスと管理会計の指標」『国民経済雑誌』186巻1号, 2002年7月, pp.1-12

「戦略的コスト・マネジメントの課題」『原価計算研究』27巻1号, 2003年3月, pp.1-10

「BSCと業績評価」『企業会計』55巻5号, 2003年5月, pp.33-39

「リアル・オプションにおけるバイノミアル・モデル適用上の問題」『会計学研究』15号, 2003年8月, pp.1-18

「ラスベガスのカジノ・リゾートの諸特徴」『三田商学研究』47巻1号, 2004年4月, pp.165-174

「リアル・オプションの有用性と活用範囲」『企業会計』56巻6号, 2004年6月, pp.18-25

「ラスベガスのカジノ・リゾートの原型」『三田商学研究』47巻2号, 2004年4月, pp.101-117

「戦略とストラテジー・マップ」『ビジネス・インサイト』12巻3号, 2004年6月, pp.20-29

「カジノ・リゾートのM&A」『三田商学研究』47巻5号, 2004年6月, pp.35-52

- 「マネジメント・コントロールにおけるリスクとリターン」『原価計算研究』30巻2号,  
2006年10月, pp.1-9
- 「リスクとリターンを考慮に入れた管理会計」『企業会計』58巻9号, 2006年9月,  
pp.4-11
- 「サービスと長期消費型経営資源の管理」『會計』171巻2号, 2007年2月, pp.1-14
- 「企業価値評価をめぐる構造」『産業経理』68巻3号, 2008年10月, pp.64-74
- 「合理的選択と業績指標」『會計・監査ジャーナル』21巻11号, 2008年11月, pp.79-84
- 「私立会計大学院における管理会計教育の現状と課題」『會計』179巻2号, 2011年2月,  
pp.59-70
- 「競争優位性構築の管理会計に向けて」『企業会計』63巻3号, 2011年3月, pp.4-10
- 「マルチプル・アトラクター構造の生成と設計」『企業会計』64巻12号, 2012年12月,  
pp.49-56
- 「スペイン高級レストランにおける顧客吸引力の創造とディレンマ」『早稲田商学』第  
444号, 2015年12月, pp.87-121

#### 共同論文

- 「グローバル組織の管理会計」『企業会計』43巻7号, 1991年7月(加登豊氏, 岡野浩氏,  
清水信匡氏, 岩淵吉秀氏, 長谷川恵一氏, 頼誠氏, 中嶋道靖氏との共同論文)  
pp.128-134
- 「自社利用目的のソフトウェアの原価管理の実態」『企業会計』44巻8号, 1992年8月  
(園田智明氏との共同論文) pp.25-31
- 「競争戦略と管理会計に関する実態分析(一)」『會計』154巻6号, 1998年12月(伊藤  
嘉博, 園田智昭氏, 長谷川恵一氏との共同執筆) pp.55-70
- 「競争戦略と管理会計に関する実態分析(二)」『會計』155巻1号, 1999年1月(伊藤  
嘉博, 園田智昭, 長谷川恵一との共同執筆) pp.95-105
- 「競争戦略と管理会計に関する実態分析(三)」『會計』155巻2号, 1999年2月(伊藤  
嘉博, 園田智昭, 長谷川恵一との共同執筆) pp.84-94
- 「わが国原価計算実務に関する調査(第1回) — 原価計算総論と費目別原価計算」  
『企業会計』63巻8号, 2011年8月(清水孝氏, 伊藤嘉博, 山本浩二氏との共著)

pp.72-78

「わが国原価計算実務に関する調査（第2回） — 部門別原価計算と個別原価計算」

『企業会計』63巻9号，2011年9月（清水孝氏，伊藤嘉博，山本浩二氏との共著）

pp.80-88

「わが国原価計算実務に関する調査（第3回） — 総合原価計算と標準原価計算」（『企

業会計』63巻10号，2011年10月（清水孝氏，伊藤嘉博，山本浩二氏との共著）

pp.65-77

「宿泊業における実態調査」『原価計算研究』38巻1号，2014年3月（伊藤嘉博，長谷

川恵一氏，目時壮浩氏との共著） pp.70-82

### 分担執筆

「帳簿組織」土渕健一編著『要説 商業簿記』第16章，中央経済社，1976年4月，

pp.204-208

「コンピュータ簿記」土渕健一編著『要説 商業簿記』第19章，中央経済社，1976年，

pp.248-260

「経営統制のための原価と利益概念」岡本清編著『管理会計の基礎知識』第4章，中央

経済社，1982年5月，pp.61-76

「帳簿組織」森藤一男編著『要説 商業簿記（増補版）』第16章，中央経済社，1983年

4月，pp.204-228

「特殊商品売買」森藤一男編著『要説 商業簿記（増補版）』第17章，中央経済社，

1983年4月，pp.229-280

「EDP 会計」森藤一男編著『要説 商業簿記（増補版）』第20章，中央経済社，1983年

4月，pp.300-312

「東芝の管理会計制度」田中隆雄編著『フィールド・スタディ現代の管理会計システム』

第3章，中央経済社，1991年10月，pp.86-104

「自社利用目的のソフトウェアの開発・管理と管理会計の役割」岡本清先生退官記念論

文集編集委員会編『ソフト・サービスの管理会計』第2章，中央経済社，平成1993

年4月，pp.23-49

「戦略的管理会計」会計フロンティア研究会編『管理会計のフロンティア』第4章，中

- 中央経済社, (伊藤嘉博, 園田智昭氏, 長谷川恵一氏との共同執筆) 1994年4月, pp.99-144
- 「原価低減の視点」『山榊忠恕先生十三回忌追悼論文集』第8章, 税務経理協会, 1996年10月, pp.131-147
- 「総合原価計算」岡本清, 廣本敏郎編著『新検定簿記講義1級 原価計算』第7章, 中央経済社, 1998年9月, pp.67-110
- 「標準原価計算」岡本清, 廣本敏郎編著『新検定簿記講義1級 原価計算』第8章, 中央経済社, 1998年9月, pp.111-127
- 「原価・営業量・利益関係の分析」岡本清, 廣本敏郎編著『新検定簿記講義1級 原価計算』第9章, 中央経済社, 1998年9月, pp.128-138
- 「原価予測の方法」岡本清, 廣本敏郎編著『新検定簿記講義1級 原価計算』第10章, 中央経済社, 1998年9月, pp.139-145
- 「流通システムとマーケティング・流通コスト」田中隆雄編著『マーケティングの管理会計』第1章, 中央経済社, 1998年12月, pp.41-55
- 「事業評価の手法」櫻井通晴編著『企業再編と分権化の管理会計』第3章, 中央経済社, 2005年9月, pp.28-44
- 「管理会計の基礎概念」清水孝, 川村義則編著『MBA アカウンティング アカウンティングの基礎』第3章, 中央経済社, 2011年7月, pp.48-60
- 「ダイナミック・マネジメント — 相対的競争優位性確保の難しさ」JBCC ホールディングズ Link 編集室編著『知恵のわ』日経BPコンサルティング, 2013年6月, pp.47-59
- 「顧客吸引力の創造とディレンマ」伊藤嘉博編著『サービス・リエンジニアリング』第8章, 中央経済社, 2016年1月, pp.139-170

伊藤 嘉博